



野田市議会議員・新社会党 **おさなみ ひろくに 長南博邦**

おさなみ 議会報告

事務所 野田市山崎貝塚町4-4-3 TEL/FAX 7125-2627
E-mail hiro-osanami@tbf.t-com.ne.jp
ホームページ <http://osanami.web.fc2.com/>



次代を担う若者の希望と安心へ 高まるリスクに支援を!!!

子どもの貧困、そして世界的に高い教育費は家庭や学生ローンといえる貸与型奨学金による自己負担。学校は出ても大きな借金を抱え、勤労者の40%は非正規労働。その多くは生活保護程度の収入しか得られません。失業率も若者ほど高いのです。

これまで社会保障の対象外となっていた若者は、逆に現在最もリスクが高まっています。人生前半の状態は生涯を左右します。若者が安心と希望を持つには、現実にもとづく福祉の発想の転換と政治の支援が必要です。

子育て支援の充実や給付型奨学金はもちろん、大学教育も含めた無償化、そして若者生活支援金の創設等々、現物給付と現金給付を早急に豊富化すべきです。豊かな経済力を持ちながら、この分野で日本は世界から取り残されているのですから。



photo H.Osanami

これらの制度に必要な財源はきちんと集めるのです。法人税減税などやっている場合ではありません。富裕層の社会的責任も果たさせるべきです。納税意識を高めるためにも各種サービスに所得制限をしてはなりません。過去の常識から脱して、全員が受益者となる普遍的福祉への転換こそ必要です。

週刊 新社会

野田市版 1月号外

発行所 新社会党 発行者 松枝佳宏
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3階
Tel 03-6380-9960 Fax 03-6380-9963
振替 00140-0-149727 1ヶ月600円 3ヶ月1600円 1部150円 40円

<http://www.sinsyakai.or.jp> E-mail honbu@sinsyakai.or.jp

12月議会 レポート

行政改革という美名で民間の低賃金構造を利用してコストを下げてきたツケが表面化した議会でした。また、市内の過疎問題も地域の核となっている学校で表面化し、対策は待ったなしの状態です。

保育士集まらず待機児童解消せず

行革のツケは保育所の待機児童に現れています。保育士が確保できれば待機児童は97人も減らせるのです(9月議会表明)。

しかし、野田市は130人規模の保育所を民間委託すれば年間3千万円浮くと、委託(指定管

理者)を進めてきました。それもすべて株式会社です。

3千万円のコストダウンのツケは保育士の低賃金にしわ寄せされ、株式会社は利益を出そうと、保育士の労働はいつそう厳しくなります。その上、保育の質は

落とさないとの市の要求は保育士を追い詰めます。

待遇改善のために市は保育士の最低賃金を公契約条例で大幅に引き上げようとしたが、事業者から賃金構造が崩れると拒否されました。

もちろん、保育所の公定価格を低く抑えている国に責任があるのですが、それを利用してきた野田市には多くの待機児童を出した責任があります。

若い保育士の夢を奪い、市民サービスを低下させる仕組みを変えなくてはなりません。

信じられない! 保育時間差別残る学童保育

一昨年9月から直営学童保育所の保育時間を委託事業同様延長したはずでした。ところがそれは平日のみで、土曜日や夏休みなどは延長していないことがわかりました。

その理由がひどいもの。平日以外は子どもたちが帰った時点で閉所し、その分は賃金をカットするという提

案を、直営では受け入れなかったからというものです。

同じ保育料を払っている市民に対するサービスで、不公平があってはならないという原則が最優先されるべきです。しかし、賃金カットを飲まない学童は差別するという、あってはならない論理を強行していたのです。

これでは過密学童問題の解消も進むわけがありません。保育

時間が違うのですから。

また土曜や長期休業中に、保護者が8時の開所時間に子どもを連れていくのでは、勤めに間に合わないという声にも対応しようとしません。



直営の学童保育指導員にしても、2人のうち1人は毎年変わる臨時職員です。臨時の職というのは突発的

なもの等に対する職であり、その仕事が毎年継続されるという

のは脱法行為。人が変わればよいというものではありません。

しかし、市当局は委託をする方針なので、その間は臨時職で対応するとかたくなです。新人指導員を抱えた年度当初の学童保育所運営がどれだけ大変なのかは他人事。学童の保育は価値ある仕事だと思っていないのでしょうか。

福田二小で複式学級! すぐに対策を

これまで小規模特認校や地域ぐるみの支援で、複式学級(複数学年で1学級)にならないようにしてきた福田第二小学校。

しかし、今年度2年生と3年生が複式学級になっていました。

本来、議会に説明し、対策を協議しなくてはならないのに伏せていたのです。

*4頁に関連記事



おさなみ議員の一般質問

所得制限やめ普遍的福祉でまちづくりを

長南博邦議員の一般質問は5項目。その概略は以下の通り。

1 普遍的福祉とその施策に基づく人口政策に対する市長の認識について

格差と貧困の増大の中でこれまでのように所得制限などで対象を絞った制限的福祉から、対象を制限しない普遍的福祉への転換が提唱され、明石市がその先鞭をつけている。

そのことによって人口増と税収増、そしてサービス向上の好循環をはじめている。これに対する市長の認識と、横並びかつ制限的福祉サービスから脱却して人口増、まちづくりに向かうべきではないか。

2 離婚家庭支援について

野田市の離婚家庭の状況について、及び野田市の離婚家庭支援の現状と対策について。これも明石市視察で学んだもの。

3 学童保育の過密対策

学童保育所の過密対策で、小学校区単位で基準を超えている場合、対応措置をとるとの方針だが、子どもたちにとっては入所している学童保育所そのものの過密化が問題となる。同学区内の学童保育所の入所バランスをとろうとしても、問題が解決しない場合は増設等の対策をとるべきと思うがいかがか。

4 駅前修景地及び街路樹の管理マニュアル作成について

9月議会で駅前修景地の管理マニュアルはないと聞いた。一方、街路樹の管理等に係るマニュアルは策定中と聞く。駅前修景地についても作成するべきであり、かつ街路樹の管理等に係るマニュアルの策定状況、及び、その内容、完成目途と来年度予算への反映、マニュアルの公開と市民参加について伺う。

5 選挙ポスター印刷費の適正化について

9月議会で選挙ポスター等の公費負担上限が上がった。しかし、選挙ポスター印刷費は下がっており、下げるべきと考えるが、選挙管理委員会として実勢価格をどの程度と認識しているのか伺う。

また、他の自治体で選挙ポスターの公費負担分で、他の選挙関係の印刷も行っているのではないかと疑念をもたれることがあるが、そのことについてどのように認識しているのかを問う。

子どもの貧困対策 入学前に準備金支給

野田市も中学校の入学に係る就学援助費（入学準備金）を入学前に支給することになりました。小学校は入学前の状態がさまざままで集計に困難があるため、今後の課題です。

就学援助は生活保護に準ずる収入の家庭（野田市は生保基準の1.25倍まで）等に支給されるもの。支給内容は学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費等、修学旅行費、校外活動費、給食費、そして医療費です。

昨年度末の就学援助受給者は小学生で663人、中学生は418

人ですが、支給日は入学準備金にあたる新入学児童生徒学用品費も含めて7月でした。

市民団体から6月、9月と議



自民・公明が高齢者医療負担増へ

長南博邦議員が提出した国に対する「70歳以上の医療費自己負担上限額引き上げや後期高齢者医療制度の特例軽減措置廃止を行わないことを求める意見書」

会に陳情が出されて採択され、教育委員会も前向きでした。

12月議会の補正予算として提案されて、遅くとも3月中には支給されることになりました。

は、政清会（自民・保守系）と公明党などの反対で否決され、野田市議会の意思として国に意見することが妨げられました。高齢者負担増に容赦なしとは。

単なる市内の過疎対策ではすまない 問題は市のポテンシャルの低下

12月議会で野田市の停滞が突き付けられました。2面に福田二小の複式学級問題を報告しましたが、これは福田地区等の市街化調整区域の問題ではないのです。一番弱いところに問題が出たのであって、市全体の地盤沈下が問題なのです。

それはかつて中心市街地に買い物弱者問題が起きたことから明らかです。

市内の雇用が激減した中では、通勤通学も含めた交通や日常生活の利便性の高いところに人は流れます。特にお隣流山市がTX沿線を軸として利便性が上がっ

ている状況では、野田市が居住の選択肢となるのは難しい。

つまり、対症療法的に、たとえば福田二小学区に人口対策を

なぜ若者の社会保障に目を向けるのか

かつての日本社会は終身雇用が基本で、働けば何とかありました。企業は福利厚生として住宅ほかの各種手当を持っていました。だから退職後の高齢者福祉中心で事は済んだのです。

そのような雇用と企業の社会保障肩代わりが消え、国の政策もその視点を持たないまま、ワー

打って問題解消という単純な問題ではないのです。鉄道政策も矛盾だらけです。

3月議会に向けて何をどうすればよいのか研究し、議論して提言したいと考えています。ご意見をお待ちしています。

キングプアが広がっているのです。特に何の資産もない若者ほどリスクが高まっています。

他方、正社員にあっても長時間労働に追い込まれ、身も心も削っています。

この現実を直視するならば、抜本的に社会保障のあり方の転換を求めていきたいとの思いで、一面の表現になりました。

17.5%増の補正予算組まれる 小学校と幼稚園空調工事予算化

野田市は国の補正予算の配分を受け、12月議会で48億円余を増額して約567億円の一般会

計予算になりました。

増額の柱は当初予算が不十分で、今年度中の仮線切り替え等

ができなかった鉄道高架事業。7億6百万円、80%余の増額、そして、くりぼり川整備費の増額、さら到来年度予算で予定していた小学校と幼稚園の空調設備整備費約34億5千万円です。ちなみに今年度の中学校の空調工事予算は16億8千万円余でした。

また、低所得年金者と低所得障害者・遺族基礎年金受給者向けに、一人1万5千円の臨時福祉給付金が入りました。

これらはいずれも今年度から来年度にかけて執行されます。小学校と幼稚園の空調設備工事は今年の夏休み等を利用して行うので、当初予定通り、来年の夏から使えるようになります。中学校は今年の夏からです。

市内複線化なしに急行や特急が走っても

東武鉄道が野田線にも力を入れています。昨年12月には浅草発の特急電車を、春日部駅で大宮方面と野田方面に3両ずつ切り離し、乗り換えなしで運河まで4本試験運行させました。

また、今年のダイヤ改正では同じ手法で野田市駅まで特急電車を乗り入れる予定です。問題は春日部から単線となっている

ことです。現在運行されている柏・大宮間の急行は春日部と大宮間こそ岩槻だけ停車ですが、春日部から柏は各駅停車です。

市内複線化は単線立体交差事業のため梅郷駅・清水公園駅間はまず不可能となり、利便性は向上しません。野田市の鉄道事業は東京直結鉄道も展望なし。取り残され感は否定できません。